

1. 評価結果概要表

作成日 2008年10月15日

【評価実施概要】

事業所番号	4271102404		
法人名	有限会社 クレイン・ケア		
事業所名	グループホーム 晴海の丘		
所在地 (電話番号)	長崎県長崎市蚊焼町210番地1 (電話) 095-833-7033		
評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成20年9月17日	評価確定日	平成20年10月23日

【情報提供票より】(平成20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年1月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9人	常勤	9人, 非常勤 0人, 常勤換算 8.77人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造平屋造り	
	2階建ての	2階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	7,500 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	150 円	昼食 250 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(4) 利用者の概要(19月10日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	5名		
要介護3	1名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.7歳	最低	79歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	晴海台クリニック 平松クリニック 柴原歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

『お話がいっぱい 笑顔がいっぱい 花がいっぱい だから幸せがいっぱい』という理念のもと、ご利用者の笑顔を大切にしながら、1人1人の意思を尊重したケアに取り組まれている。理念のとおり、庭の花壇には季節の草花が植えられ、目の前には海が広がり、温かく来訪者を迎えてくれている。近くに系列のホームもあり、お互いに行き来することで生活の広がりもできてきている。施設長・次長・管理者・職員が、それぞれの資格・経験を踏まえて協力しあい、1~2ヶ月に1回、系列の事業所合同で勉強会を開催している。平成19年に職員が自主的に立ち上げた介護向上委員会の活動も継続しており、職員自らが介護の質の向上に向けた取り組みも始まっている。取り組みの結果の1つに、食を楽しむための献立担当確認者ができ、ご利用者はいつも新鮮な魚や季節感を味わえる食材を食べることを楽しめている。昨年と比較しても地域の方々との交流も深まってきており、ご利用者の心の声に、家族の心の声に真剣に向き合いたいと感じているとともに、地域にも恩返しをしたいという思いも強く、地域との関わりも大事にしている。運営者・管理者の計画的で丁寧な指導のもと、職員一人ひとりの介護の質が確実にあがってきており、離職もほとんどない。日々成長を続けているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>ご利用者から学び、支えあう関係作りの構築やご利用者一人一人の思いや意向の把握に近づけるよう、ご利用者と一緒によくとした時間を過ごす中で、秘められた感情の表出を促し、喜怒哀楽をともに分かち合えるような取り組みに努めている。またご利用者本位の介護計画作成や現状に即した介護計画の見直しに関しては介護計画作成の際に介護支援専門員と一緒に各職員が作成するという担当性を導入することで、ご本人、ご家族の意見やアイデアが反映された計画に近づけている。</p>
	②	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者の方から、職員に自己評価、外部評価を実施する意義や目的について主に口頭で説明することを続けており、徐々にではあるが職員の理解や活用につながってきていると感じている。来年度は、サービス評価の意義や目的、活用方法について全職員に周知徹底し、更に一連の過程を通じて事業所の質の確保に活かせるように努めていく。</p>
重点項目	③	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では継続してご利用者の状況や日々の暮らしぶりなどを参加者へ報告している。会議への参加者も多く、盛況である。施設長のこと、ホームのことを理解してくださる参加者ばかりで、事故を予防するための視点等、ホームにとって前向きな、的を得た意見をいただくことができ、職員も会議への参加が楽しい...と思える現在である。今後も地域の方々からの意見を大切に、サービスの向上につなげていきたいと考えている。</p>
重点項目	④	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族はご利用者の健康面や日常生活ぶりを心配されているため、職員は、なるべくご利用者のプラス面を先に報告し、安心していただけるように配慮している。また遠方の方々には月に1回電話にて状況報告を行い、また写真を添えて手紙を送付し個別報告している。ご家族のホーム来訪時、なるべく施設長、次長、管理者、職員ともに、ご家族に声かけをし、繰り返し要望を言っていたり、なるべく働きかけを続けることで、ご家族の方からいろいろな本音や要望を言っていたり、今後は地域の方々との距離が縮まってきていることに手応えを感じている。</p>
重点項目	⑤	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の方々への挨拶、会話も引き続きおこなうことで、地域の方々との言葉を交わす機会が多くなった。また、こちらから挨拶をするだけでなく、ご近所の方々から気持ちよく挨拶をしてくださることに喜びを感じており、ホームへの理解が深まってきているということを実感している。地域のお祭りや学園の運動会、子供110番の役割も継続しており、今後はさらに地域の中でホームの役割を作っていく取り組みを続けていきたいと思っている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームを開設する前に施設長が理念を作成した。「お話しっぱい 笑顔がっぱい 花がっぱい だから幸せがっぱい」という理念の中には、ご利用者、ご家族の方に、たくさんのお話をさせていただき、スタッフはたくさんのお話の中からご利用者の笑顔を引き出し(できることを探し、支援する)、ホームは、ご利用者の方々が地域の中で安心した生活を継続できるよう環境を整えるという思いがこめられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の会議の中で、施設長が理念に関する話をおこなっている。現場でおこなっていることが理念に結びついているのか、方向性が間違っていないのかを職員は再確認している。また、採用前の職員に対しても面接時に伝えており、全職員が自分の言動に気付けるようになり、理念の共有、実践が全員でできるようになっている。		
王の					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭り、地域の学園の運動会の見学などに参加している。学園からは招待状の葉書をいただき、ホーム用のテントも準備してくれている。またホーム前が地域の学校の子供たちの通学路になっており、「子供110番」の役割も継続できている。また最近では地域の方々へこちらから挨拶するだけでなく、地域の方々の方から挨拶をしてくださることが増え、以前に比べ言葉を交わす機会が多くなった。地域の方のホームへの理解は深まっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者から全職員に、自己評価、外部評価の意義と項目の概要を口頭で説明し、日頃の状況を振り返りながら、運営者、管理者で自己評価を行なった。また、昨年度の外部評価後、一部の職員が中心になって改善策を検討し改善計画書を作成した。改善の実施のプロセスでは、職員全員に説明し、特に、介護計画作成に関する項目の改善策を職員にも伝え、各職員が一連の介護計画作成のプロセスに関わるようになった。	○	引き続き来年度も、時間的なゆとりを作り、職員全員で、自己評価や対応策の検討をしていきたいと考えている。また段階を踏みながら、他の職員にも一部自己評価を担っていただくことを考えており、数年計画で職員全員が参加すること、評価することを説明し、さらに日々のケアを振り返る機会になっていくことを期待していきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のときに、ホーム内を見学していただいている。ご利用者の状況や日々の暮らしぶりなどを報告し、参加者からのご意見もいただいている。また参加者も多く、参加していただける方々が、施設長・職員のこと、ホームのことを理解して下さっておられるため、会議の中で、的を得た返事をしてくださったり、職員の話も分かっていたりすることも多く、また地域の方々からの立場からご意見もいただけることで、楽しく有意義な会議を開催することができている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームを開設する前は、施設長などを中心に頻回に市役所に相談に伺っていた。開設後も、必要時は電話などで相談をし、親切丁寧に回答をしてもらっていた。市役所への訪問は徐々に少なくなってきたが、現在は事務職員が定期的に市役所の方へ挨拶に伺っている。	○	今後も、事務職員だけでなく、管理者の方でも市役所への訪問を増やし、より良い関係を続けていきたいと考えている。今後、よりホームのことを市役所の方に理解していただき、一緒に課題解決していける取り組みができていくことを期待していきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族は、「健康面、病気の進み具合、暮らしぶりの中で他の方どうまくいっているか」などを特に気にかけているようなので、施設長、次長、管理者等は、なるべく、ご利用者のプラス面を先に報告し安心していただくようにしている。面会時と合わせて、遠方のご家族へは月1回は電話での報告と写真を添えてお手紙をお送りし、正しく個別の現状報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族がホームを来訪時、施設長、次長、管理者、職員ともに、ご家族に声かけし、繰り返し要望を言っていたり、ご家族との距離が徐々に縮まり、いろいろな意見や本音をざっくばらんに話していただけるようになり、手応えを感じている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者である施設長は、職員が交代することで、ご利用者へのダメージがあることを理解しており、基本的に異動をおこなわないようにしている。やむを得ず異動がある場合でもご利用者やご家族に動揺を与えないように配慮している。ここ一年、離職者はなく、職員間の仲も良く、職員の休みの希望に極力応じたり、それぞれの立場の方が、それぞれの職員の話しや悩みを良く聞く体制もできており、日頃からチームワークを大切にしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長が介護に関する講義を定期的におこなっている。また、職員が立ち上げた介護向上委員会も開催中であり、職員自ら、介護の質の向上に向けた動きが継続できている。さらに1～2ヶ月に1回、系列の事業所合同で勉強会を開催している。現在は一人一人の経験年数や力量に合わせてステップを踏みながら全職員に研修等のお誘いをしており、また参加希望もあがってきており、それに対して研修を受けられるようなシステム作りが出来る。会議の中での伝達研修も継続してできており、さらなる質の向上に向けた取り組みを続けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長など運営者は、同業者との交流をおこなっていく必要性を理解しており、他のグループホームとの情報交換などもおこなっている。また、研修会があれば職員に参加するよう働きかけており、外部研修への参加も増えてきている。その上、施設長が他施設などからの依頼で認知症ケアなどに関する講義をおこなっているが、その後、講義を受講した方がホームのほうに見学に来られることも多く、他のホームとの交流も増えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に生活しているご自宅や施設などに事前に訪問し、ホームに入居する前に、ホームの見学に来ていただき職員とも顔なじみになるようにしている。入居の説明は、ご家族からご本人に説明をしていただくようにしており、なるべく、ご本人が安心して、納得して入居できるよう配慮している。ご家族の了解を得て、ホームの生活に慣れるまでは、ご家族の面会を多く持っていただくようお願いしたり、事前にご家族からご本人の好みや嫌な事を教えていただき、ご本人及びその家族の心理をしっかり把握するように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、ご利用者から、手芸や歌、踊り、料理などの作り方を教えていただいている。一緒に料理をするなど、職員とご利用者がともに完成を目指す中で、ご利用者から励ましの言葉をいただくことも多い。また、言葉遣いや物腰など、ご利用者自身が身につけてこられたものからも教えていただくことが多い。その都度、職員は感謝の気持ちをご利用者に伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の半数以上がご希望を言われる方であり、日々ご利用者の発する言葉に耳を傾けながらご希望に添えるように対応している。意思疎通が困難な方に対しては、言葉で表現できない、その裏に潜む思いをわずかな行動や表情から思いを把握する努力をすするとともに、ご利用者との目線を合わせることや「ご本人はどうか」という視点に立ち、ご利用者の思いに近づく努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成にあたり、19年9月より、全職員に対し介護計画作成のための研修を実施し、各担当職員がアセスメントから介護計画作成、そしてご家族への説明(同意のサインをいただく)までを、介護支援専門員も支援しながら一緒に実施している。介護計画に関する意見が、職員からも出始めてきており、計画作成の際は、ご利用者、ご家族、他関係者等との話し合いをしながら行っている。	○	今後もチームと一緒に話しあいながら介護計画を作成していきたい。またご本人とご家族のお話を伺いながら、希望やアイデア等が反映された、よりご利用者主体の介護計画になっていくことを期待したい。加えてご利用者の生活リズムのさらなる把握のために介護サービス計画書(3)の作成を充実させていくことも期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々、ご利用者に変化が見られたときは申し送りをおこなっており、変化の状況に関する職員間での共有はできています。また、3ヶ月に1回、見直しをおこなうようにしているが、まだ十分に見直しをおこなえている状況とは言い難い。今後は、担当職員も一緒に、さらに細やかにモニタリング、再アセスメントがおこなえるよう、担当職員への研修も含めての取り組みや管理者等によりさらなる指導をおこなっていきたく考えている。	○	今後、アセスメントと同様、職員研修が進んでいく中で、より現状に即した介護計画の見直しがおこなわれていくことが期待できる。ご利用者、ご家族、他関係者も含めて、いろいろな方と話しをする機会を作っていきたいとも考えており、今後、より現状に即した介護計画の作成ができていくことを期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制が十分に整っており、信頼できる医師や医療機関との連携がはかれている。急な受診の対応や十分な健康管理もおこなっており、ホームの看護師を中心に職員の観察力もレベル向上している。また酸素が必要な方もホームでの生活ができるなど、柔軟な対応もおこなっている。「家にかえりたい」というご利用者対してもご家族の協力のもとご自宅への外出もできており、今後もご本人やご家族の要望だけでなく、地域の方々からの要望に対してもさらに柔軟な対応ができるように努めていきたいと思っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族などの要望を聞き、以前からのかかりつけ医で受療していただいている。病状により、往診が必要な場合等は、施設長が、ご本人、ご家族に丁寧に説明し同意の上、往診が可能な協力病院で受療していただくようお願いするときもあるが強要はしていない。通院方法に関する希望も聞いているが、原則はご家族も同席の上、かかりつけ医からの話を聞いていただきたいと考えているので、原則、ご家族も通院時に同席いただくようにしている。往診時の結果はご家族にしっかりと報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	施設長、次長が看護師でもあり、ご家族などの希望に応じて終末期ケアをおこなっている。重度化した時や、終末期に対する真実の思いもご利用者やご家族から受け止め、汲み取り、支援につなげている。協力医療機関との話し合いもできている。職員への終末期ケアに関する研修も、職員個々に実施しており、全職員が“後悔のない終末期”を送ってもらいたい…との気持ちを強く抱いている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員が、ご利用者の居室を入室する時は、必ず声かけをおこない、その方に応じた名前呼び方や話し方も気をつけており、否定的な言い方はしないようにしている。入社時、職員は個人情報に関する研修を施設長より受け、誓約書にサインをするとともに、日々の現場でも、職員は意識して個人情報の取り扱いの徹底に留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を表現しない方であっても、ご家族にこれまでの生活を尋ねたり、表情や態度、行動などにより、何を求めておられるのかを汲み取り、ご利用者一人一人の生活ペースに応じて洗濯物たたみをしていただいたり、テラスへ出て日なたぼっこをしたりその人らしい生活に近づけるよう支援をおこなっている。夜間等、対応できないことがある時はその都度対応できないことを説得するのではなく、丁寧に説明し、納得していただけるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者に広告や料理の本を見ていただき、食べたいものを探ねたり、下ごしらえ、味見、盛り付け、テーブル拭きなどを手伝っていただいている。おやつ(いちご大福、わらびもち、ケーキ等)は、職員とご利用者と一緒に手作りにしている。また旬のものを取り入れ、季節感を味わっていただくとともに、職員が釣ってきた新鮮な旬な魚をさばいて食べたり、また彩りにも配慮し、美味しく楽しく食事ができる配慮をしている。同じテーブルで職員も一緒に食事をしており、楽しい会話の中で楽しい食事となるよう毎日心がけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	重要事項説明書の入浴の部分には「週2回を基本として・・・」と言う表現には「最低、週2回以上」と言う意味がこめられており、毎日でも入浴は可能になっている。ご利用者の好みや希望を大切にしているが、希望の時に入浴できない場合は、シャワーや下半身浴をおこなうなどの対応をおこなっている。羞恥心への配慮として、個浴を原則にするとともに、必要に応じて同性の職員が介助をおこなっている。入浴剤やゆず湯をおこなうなど、入浴を楽しむ工夫もしているが、何よりも浴室から海が見えることが最高の心地よさにつながっている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	居間から見える海、空は、何よりの気晴らしにつながっているが、ご利用者の方々に、長年培ってきたお力を発揮していただけるよう、食後の茶碗拭きや洗濯物たたみをしていただくなど日常生活の中で役割を持っていただくとともに、生け花、植物の手入れ、歌、魚釣りゲーム、大好きなあめ玉をなめるなど、その時その時のお気持ちを大切にしながら、楽しい生活となるよう取り組みを続けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居する前から良く行かれていた馴染みの地元の店や親戚の家などのお好みの場所に、ご家族の協力のもと、個別に外出できるよう対応している。「自宅に帰りたい」という方には、ドライブがてら自宅にお連れしたり、中に入れない場合は、自宅のそばを通ったりと、なるべくご利用者本位の外出ができるよう支援している。	○	今後、もっとご利用者の方々の外出に対する希望を把握し、その希望に沿った外出ができるよう取り組みをしていきたいと考えている。たとえば、「外出行事担当職員等」を決め、担当職員を中心として外出を企画する役割を担ってもらうように検討してみたいか。今のところ月1回程度の頻度で1人、2人ずつの買い物を検討しているが、今後は外出回数が増えることで、ご利用者の表情も変わり、さらに言葉の数も多くなる可能性もあり、今後の取り組みに期待していきたい。
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は朝6時から夜20時まで開放されており、鍵はかけておらず、ご利用者、ご家族の方には自由に出入りしていただいている。職員同士で声を掛け合い、お一人お一人の行動の確認、見守りをおこなうとともに、近所の方にも見守りや必要時の連絡のお願いをしている。また運営推進会議の時にも「何かあったら、近隣の方の応援をいただければ」会議のメンバーである民生委員の方より地域の方にもお願いしていただいている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	平成18年9月、火災通報装置を設置し、その使い方も含めた訓練を行っている。年2回実施し、職員、ご利用者、消防署の方が参加し、火災時、地震時と合わせて、夜間を想定しての訓練も行っている。運営推進会議を通して、地域の方にも災害時の協力をお願いしており、災害時、地域の方々の避難場所に使っていただけるよう、地域の方用(3人分)も含めて、食料、飲料水、寒さをしのぐための毛布、布団類などの備品を準備している。また今年の6月にはAEDの取り扱いや応急手当の実施訓練を行った。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々人の状態に応じて、美味しく食べやすい食事を提供していくために、食事形態や食事量、また盛り付け方法等に対する職員の認識が高まってきている。最近では献立確認担当者を設け、カロリーや栄養の確認、メニューチェック等を行い、魚や肉が偏っていないか等の確認やおやつ作りの機会を増やす等の取り組みを開始している。おいしく食を楽しんでいただけるよう常に創意工夫していく。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内が居心地の良い空間になるよう、玄関や食卓に季節の花を飾り季節感を取り入れるよう配慮している。ご家族の方が、自宅で育てた花をホームに持ってきてくださる時もあり、ご家族からも「ここに飾ったらどうですか」など、空間作りに関する意見をいただいている。日差しに配慮したカーテンやよしずを使用しており、リビングにはソファやテレビ、テーブルを置いてくつろいでいただいている。行事のときの飾り付けが映えるよう、日頃は、壁に飾り物をせず白い壁を活かすようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族とも相談しながら、衣装ケース、座いす、家具、ぬいぐるみなど持ち込まれており、ご利用者にとって慣れ親しんだものに囲まれるように配慮をしている。以前の生活で使用されていたもの、自分の部屋だという見分けがつくものを持参いただくようにしている。		